

ふくいのかみき

福井県生活協同組合連合会

〒910-8557 福井市開発町第2号1番1(県民生協本部センター内)

TEL0776-52-8815 FAX0776-52-2050 Eメールアドレス kenren@fukuicoop.or.jp

2012年3月5日 No.94

<http://www.fukui.coop/kenren/>

福井県生協連合会

検索



2012年は

国際協同組合年

International Year of Co-operatives

国連では1957年より「国際年」を設け、共通の重要テーマについて、各国や世界全体が1年間を通じて呼びかけや対策を行うよう取り組んでいます。(例えば2011年国際森林年、2010年国際生物多様性年など)

国連は2012年を国際協同組合年とすることを宣言しました。これは、協同組合がもたらす社会経済的発展への貢献が国際的に認められた証で、特に協同組合が貧困根絶・仕事の創出・社会的統合に果たす役割が着目されています。

2012国際協同組合年には以下のような3つの大きな目的があります。

- (1)協同組合についての社会的認知度を高める・・・協同組合の貢献・協同組合の世界的ネットワーク・コミュニティ構築や平和への取組などについて知ってもらう
- (2)協同組合の設立や発展を促進する
- (3)協同組合の設立や発展につながる政策を定めるよう政府や関係機関に働きかける

これらの目的に向かって、国際的にも国内でも様々な取り組みを行っていきます。

国際協同組合年のロゴは、7名の人が協力して立方体を持ち上げ支えている様子を描いています。この立方体は、協同組合の事業が目指す様々なゴール・志や、それらの事業が果たせる成果を表現しています。

また7人という数は、協同組合運動の7原則(①自発的で開かれた組合員制、②組合員による民主的運営、③組合員の経済的参加、④自治と自立、⑤教育・訓練・広報、⑥協同組合間の協同、⑦コミュニティへの関与)を示しています。



2012
国際協同組合年

2月15日にて『生協ボランティア月間』は終了しました。ご協力ありがとうございました。

収 集 物	11 年 度 の 量
使用済み切手	2,440g
ベルマーク	204枚
書き損じ葉書	34枚
外国コイン	0枚
ロータスクーポン	0枚

収集されたものは、福井県ボランティアセンター等を通じて、収集ボランティア団体からコレクターに売られて、換金され、福祉活動に活用されます。ご協力ありがとうございました。

福井県民生協では、東日本大震災で生協がとった対応や地域の中で果たした役割を学ぶことで震災対応や事業継続計画の対応レベルを上げることを目的に、みやぎ生協 総務部次長の五十嵐桂樹氏を招いて講演会を開催しました。講演の要旨を報告します。

みやぎ生協の被災状況

職 員

パート職員含めて職員総数約7,200名のうち、職員本人16名、職員の家族137名の犠牲者。6/10に「合同慰霊祭」を行った。

生協施設

すべての施設で被害発生。本部は全壊。14店舗で甚大な被害。2店舗は津波のため営業不能となり6/20で閉店。すべての店舗が店内営業再開できたのは9/6。

被害金額

特別損失約60億円、当期損失金64億700万円。



大震災への対応を通じて感じたこと、考えなければならないこと

- ①「生協グループ」が大きな社会的役割を発揮した。全国の生協からの人的、物的両面にわたる大きな支援があつて、みやぎ生協はがんばりきれた。
- ②大規模地震対応マニュアルはほとんど役に立たなかった。ミッションをやりきるための具体策は極めて不十分であり、「二の手、三の手」も用意しておらず、大規模災害への備えが弱かった。
- ③「社会的役割を果たす」ことの大変さと厳しさを痛感した。みやぎ生協の対応は多くの組合員や行政から評価を得た。しかし、お買い物にいけない身体の不自由な方や老人世帯の方など、生協に普段の食生活の多くを頼っている方々への対応がきちんに行えていたか。緊急時だからこそ、より困難な方への対応をきちんを行うこと、地域での活動がどれだけ住民に貢献できたかということが、評価の軸にならなければならない。
- ④「組合員」に対する各種の情報提供が不十分だった。生協HPと報道機関に頼るのみで、店頭への掲示板設置や組合員組織の活用など情報提供のための「アナログ的手段」をもっと重視すべきだった。
- ⑤ごみ処理問題や警備問題など、様々な課題を行政と日常的にコミュニケーションをとっておくことが必要。

大災害発生時の みやぎ生協のミッション

Missions

- ①事業をできる限り継続すること。また中断した場合は、できる限り早く再開し、商品が必要としている地域の方々に提供を行うことにより、社会的責任を果たすこと。
- ②行政からの要請に応え、避難所などで必要としている物資をお届けすることにより、被災者支援に貢献すること。

*しかし、ミッションだけで人が動くわけではない。被災地全体が「誰もが助け合う」という状況になっていたことが大きい。「緊急事態とはこういうこと」と認識し、「人間として当たり前のこと」をやった。

事業継続計画を策定中。Point!

- ①事業継続に必要なインフラのうち、ある程度のもものは自前で用意（井戸、自家発電など）
- ②災害対策本部会議は論議の場ではなく、やったことの結果とこれからやることの情報共有化、他部門との調整の場。各責任者が基本的にその分野に関しては全権限を持つ。
- ③職員の安否確認の完了に、それぞれの所属でかなりの手間と時間が割かれた。今後は各職員が震災発生時に自ら生協へ安否を申告することとし、生協側は、期限までに申告のない職員を対象に安否確認を行う
- ④「やってはいけないこと」の明確化。
 1. 商品の売り惜しみをしてはいけない（ただし、個数制限など公平な対応は可）。
 2. 商品を通常価格より高く販売してはいけない。
 3. 侵入者、強奪犯への警告を行ってはいけない。

会員生協のボランティア活動紹介

福井県生協連合会では、会員生協（組織または役職員・組合員）が行っているボランティア活動に対して助成金をお渡しし、活動を応援しています。11年度は3生協のボランティア活動を応援しました。

菅浜生協

菅浜生協では組合員が組織する団体の環境整備活動、教育活動などの支援を実施して、区の活性化を図っています。



6月17日

神奈川県大和中学の生徒さんの炭焼き体験を受け入れました。写真は出来あがった木炭の箱詰め作業の様子です。
(体験者26人)

11月13日

区民全員が集まる菅浜生協まつりでは、生協前の設営テントで餅つきを行いました。つきあがった餅はぜんざいやきな粉餅にして、祭りを盛り上げました。



福井県民生協

節電と省エネに貢献するため、生協職員の中から協力者を募り、

5月より緑のカーテンづくりを始めました。1階は本部センターの正面（西側）と南側に、2階は西側に、ゴーヤを中心にトマトやきゅうり、朝顔やひょうたんなどいろいろな苗を植えました。

7月には、たくさん取れたきゅうりを食堂で提供しました。



福井大学生協

福井大学生協学生委員会So Sen部が中心となって、食堂のエントランスにゴーヤ、朝顔のグリーンカーテンを設置しました。

西日が強いところでエアコンの効率が悪くなっていましたが、省エネを実現すべく活動をしました。また、組合員に広く参加を呼びかけ、交代での水遣りなどを実施しました。



消費生活アドバイザーによる

『くらしの相談会』を開催します! **無 料**

事前予約による個別面談相談（お一人当たり30分程度）です。ささいなことでもお気軽にご相談ください。専門家がアドバイスいたします。

日 時	場 所
3月17日(土) 10時～16時	ハーツさばえ 組合員集合室

相談事例：契約トラブル、相続・後見、年金・ライフプランなどくらしに関するご相談、衣・食・住全般に関するご相談など。

お問い合わせ・
事前予約受付電話番号

☎0776-52-0626
(公社)ふくい・くらしの研究所

福井県生協連では、消費者が気軽に相談できる専門家による「くらしの法律相談会」および「くらしの相談会」を今年度初めて4会場で取り組みました。お勤めの人でも気軽に相談しやすいように、地域生協である福井県民生協の店舗内（ハーツ）で土曜日開催としました。困ったことや疑問に感じていることを声に出しやすい環境をつくり消費者トラブル解決支援を目指しています。

9月・11月は弁護士による無料法律相談会を、10月は消費生活アドバイザーによるくらしの相談会を実施しました。3月も、左記のように消費生活アドバイザーによるくらしの相談会を予定しています。どなたでもご利用いただけます。些細なことでもお気軽にご相談ください。

主催：福井県生協連合会、福井県民生協、(公社)ふくい・くらしの研究所
後援：福井県

会員生協の活動報告 & 予定案内

福井県 労済生協

全労済「第2回地区推進委員会」を開催

全労済福井県本部では11月末で2011年度の上半期が終了しましたが、2011年度上半期の推進活動は、震災対応を事務局として最優先してきたこともあり、全体として取り組みに遅れが生じました。その結果、新規獲得実績が思うように伸びておらず、厳しい状況となっています。

このような状況の打開に向けて、県本部および地区推進委員会における「下半期活動計画」が各地区推進委員会において提案され、承認されました。下半期活動計画では、「住まいと暮らしの防災・保障点検運動」の展開、「キッズ満期金付プラン」の推進などが補強されており、下半期活動の中で今年度目標の未達成数値をクリアできるよう取り組みを進めていきます。



福井 大学生協

松岡キャンパス(医学部)に待望の購買店舗を出店しました

04年4月に国立大学法人福井大学となり、福井大学生協では08年に食堂カフェテリア PLUMを出店しました。大学と協議の結果、食品分野を取扱う購買店舗として昨年12月9日「ショップ PLUM」を出店させていただきました。1日の来客300名、供給8万円という目標からスタートしました。当初、併設しているカフェテリア PLUMの客数が減少するのではないかと懸念されましたが、今のところ変わらずご利用をいただいています。今後も医学部組合員の充実したキャンパスライフを応援したいと思います。



福井 県民生協

地域と組合員との つながりを大切にします

ハーツ志比口 3月24日(土) グランドオープン <福井市志比口2丁目>



ハーツ志比口は『おいしさと健康』『環境にやさしいお店』『すべての人にやさしいお店』をコンセプトに組合員のみなさんと地域のみなさんに愛されるお店を目指しています。

県立病院のすぐ北側にオープンするハーツ志比口は、これまでのハーツの中でも最大規模の売り場面積のお店になります。この広い売り場を新鮮な地場の魚や野菜、さつま自然牛やさくら豚など産直のお肉、出来立てのお惣菜など、毎日の食卓に欠かせない商品でいっぱいにして組合員みなさんの来店をお待ちしています。

ハーツ志比口は単に食品スーパーとしての位置付けだけではなく、ハーツを核に地域で子育て支援や買物支援、リサイクルや防災の拠点などコミュニティーの場としてさまざまな役割を果たしていきたいと考えています。